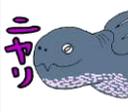


LINEスタンプ「小笠原のウミガメ 生態マメ知識」

 <p>生まれたばかりの稚ガメはとってもかわいいです。</p>	 <p>稚ガメの生態はほとんどわかっていません。謎の多い生き物なのです。</p>	 <p>アオウミガメは海藻・海草以外にクラゲも食べます。</p>
 <p>多くのウミガメがプラスチック袋を食べてしまっています（つまって死ぬわけではありません）</p>	 <p>海洋センターのアイドルなっちゃん（アカウミガメ）の好物はカニです。</p>	 <p>これは爪です。（ウミガメの手はヒレ状になっており、指はありません）</p>
 <p>漂流ゴミや人が捨てたゴミ・・・きれいな砂浜が減っています。</p>	 <p>ウミガメのためにもキレイな砂浜を維持していきましょう。</p>	 <p>ヒメウミガメの背中で鳥がひと休憩をすることがあります。</p>
 <p>オサガメはウミガメ種最大で、2m近くにまで成長します。とっても大きいのです。</p>	 <p>ダイビングでウミガメと一緒に泳ぐことができます。ぶつからないようにご注意ください。</p>	 <p>オスは時々メスと間違えてダイバーに抱き着くことがあるようです。</p>
 <p>おつかめさま〜！ダジャレでウミガメ好きをアピールしましょう！</p>	 <p>大きくなって小笠原の海にまた帰ってきてね！</p>	 <p>海洋センターの人気者コータ（アオウミガメ）の得意技は欲しい欲しい攻撃！みんなメロメロです。</p>
 <p>たまに見せるおとぼけ顔がウミガメの魅力です。</p>	 <p>海に入った稚ガメは沖を目指します。エサの豊富な沖についたらラッキー♪</p>	 <p>大人になったウミガメは自分が産まれた浜辺に帰ってくると言われています。</p>
 <p>アカウミガメは、大きな頭にズングリした体が特徴の肉食系です。 ※肉食系</p>	 <p>アオウミガメは、小さな頭が特徴。草食系のカメです。 草食系なの...</p>	 <p>ふ化した稚ガメが地上に出てくるのを脱出と言います。脱出時、一斉に稚ガメが土の中から出てきます。</p>
 <p>子ガメが水面にいる時にとるポーズ。まるで木の葉のようです。</p>	 <p>タイマイの甲羅はべっ甲細工の材料に使われています。昔は甲羅を目当てに乱獲されました。</p>	 <p>種類にもよりますが、ウミガメは1回の産卵で約100個の卵を産みます。</p>
 <p>稚ガメは明るさを頼りに海の方向を知ります。しかし、街の灯りを勘違いすることも多いです。</p>	 <p>街の灯りに誘われたウミガメは、ドブに落ちたり、交通事故にあうことも。</p>	 <p>小笠原で稚ガメの前に立ちちはだかるツノメガニ。うっかり遭遇すると・・・</p>
 <p>びっくりしている稚ガメ。その視線の先には・・・</p>	 <p>稚ガメの歩いた後には、かわいい足跡が。（ハートにはなりません。笑）</p>	 <p>産卵時に涙のように見えるのは実は塩水です。痛かったり悲しかったり、泣いているわけではありません。</p>
 <p>ストランディング調査（ウミガメ漂着個体の調査）でウミガメの情報を得ることができます。</p>	 <p>びっくりかえったウミガメは起き上がれません！（稚ガメは小さいので自分で起きあがれます。）</p>	 <p>ウミガメを狙う魚やサメ、海の中は危険がいっぱいです。この厳しい生存競争を生き抜かなくてはなりません。</p>
 <p>オサガメの主食はクラゲです。大きな体でのんびりと食事をします。</p>	 <p>タイマイがカイメンを食べることによって、サンゴ礁の生態系が豊かになると言われています。</p>	 <p>ふ化の時、稚ガメは、鼻の下にある少しとんがった卵殻を使い、卵を割ります。</p>
 <p>コスタリカでは何万頭というヒメウミガメが一斉に産卵のために上陸します。</p>	 <p>子ガメは夜に脱出をします。日中は暑いので体力を消耗してしまいます。</p>	 <p>ウミガメの性別はふ化前の温度によって決定します。温度が高いとメス、温度が低いとオスが生まれてきます。</p>
 <p>若いアオウミガメは甲羅に放射模様があります。</p>		